

議会事務局 処 理 欄	受 付	令和8年2月17日	質問（受付）順位	3番
		14時00分		

令和8年2月17日

阿久比町議会
議長 竹内 卓美 殿

阿久比町議会議員
新美 加寿奈
議席番号 3番

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和8年第1回定例町議会において次のように質問したいから通告します。

番号	質問事項	質問の要旨（具体的にご記入願います）	備考
1	ごみの分別と収集・回収体制のあり方	<p>ごみを減らすための4Rの取組みの中でも特にリサイクルは、住民一人ひとりによる分別作業なくして成り立たないものです。日々の生活の中で手間と時間をかけて行われている分別の積み重ねは、持続可能な社会の実現を支える重要な基盤である一方で、分別の誤りは火災や設備トラブルなどの重大な事故につながるおそれもあります。</p> <p>住民の手作業で行われる分別の努力は、行政においてどのように集約・処理され、資源循環や環境負荷の低減にどのように結びついているのでしょうか。</p> <p>機構改革により令和7年度から環境課が新設され、ごみ対策をはじめ、地球温暖化対策やカーボンニュートラルの推進など、町民生活に直結する環境施策の体制が強化されました。令和8年3月には「地球温暖化対策実行計画」の策定も予定されています。同計画案の冒頭には、町長より「町民の皆さま一人ひとりの行動が、次の世代に引き継ぐ阿久比町の姿を形づくっていきます」とあります。</p> <p>こうした体制整備や計画策定を契機とした住民一人ひとりの取組みが、最終的に地球環境保全や将来世代への持続可能な環境の継承にどのようにつながっていくのか整理するとともに、必要な改善点や、より実効性を高めるための新たな展開について問います。</p>	

番号	質問事項	質問の要旨 (具体的にご記入願います)	備考
		<p>(1) ゴミステーション</p> <p>① ゴミステーションに関する年間の苦情件数とその内容。</p> <p>② 行政協力員等から受ける年間のネットの交換依頼件数。</p> <p>③ ネットが地域によってさまざまな理由。またその基準。</p> <p>④ 金属メッシュタイプや蓋付きタイプに置き換えることで、鳥獣によるごみの散乱を軽減できるか。また移行の予定はあるか。</p> <p>⑤ 他市町で取組まれている事例を研究しているか。また導入を検討するような良い事例は。</p> <p>(2) 分別・回収</p> <p>① 収集に該当しない廃棄物がゴミステーションに出された場合の、回収・処理に至るまでの手順、処理費用の実態は。</p> <p>② お菓子などのプラスチック製の個包装を小さく固く縛ると処理場の機械故障の原因になるか。</p> <p>③ 充電式電池の回収箱に、該当しない廃乾電池などが大量に廃棄されているが、この課題をどのように捉えているか。</p> <p>④ 充電式電池の回収箱や廃乾電池のコンテナに、分別が一目でわかるような工夫をすべきだと考えるがどうか。</p> <p>(3) リユース</p> <p>① 住民に好評の子ども用品リユース市は、年4回金曜日の午前中に開催されているが、共働きの場合は参加が難しい。開催日時や実施方法の見直しなど、現状の課題をどのように認識しているか。</p> <p>② リユース市に限らず、リユースの取組みを広げていく考えは。</p> <p>(4) 環境課の役割と課題</p> <p>① 分別・回収されたごみを処理する際の行政の課題。</p> <p>② 住民から寄せられるごみの分別・収集に関する主な質問や要望は。</p> <p>③ 機構改革から間もなく1年となる。ごみ問題に関する具体的な成果と、現時点で認識している課題。</p> <p>④ ③を踏まえ、ごみ施策が住民参加型の資源循環施策として十分に機能しているか。その評価は。</p>	

番号	質問事項	質問の要旨 (具体的にご記入願います)	備考
2	育休退園の廃止	<p>「育休退園」とは、第2子以降の出産に伴い保護者が育児休業(育休)を取得した場合に「家庭での保育が可能」とみなされるため、上の子の保育の必要性が喪失したとされ、すでに通っている保育園からの退園を求められる制度を指します。愛知自治体キャラバンの資料によると、2023年度(令和5年度)中に育休退園となった本町の子ども的人数は、0歳児2人、1歳児5人、2歳児6人の延べ人数13人です。</p> <p>育休退園の主な問題点は、以下の3点にまとめることができると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生後間もない乳児と、遊びたい盛りの幼児を同時に育児することによる産後の身体への大きな負担 ・ 園での生活を失い、先生や友達に会えない、上の子の不満 ・ 育休終了後に兄弟姉妹を同時に同じ園に入園させることが可能なかという不安 <p>① 国の通知及び関係法令に基づく保育の必要性の認定基準に対し、育休退園をどのように解釈しているか。</p> <p>② 令和6年度、7年度に育休退園した子どもの数。</p> <p>③ 以下の観点から、育休退園について見解を問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 保護者支援・負担軽減の観点 イ 子どもの成長・発達の観点 ウ 切れ目ない保育の推進の観点 <p>④ 育休退園の解消には保育士増員は必要がないと考えるが本町で育休退園が廃止されない理由は。</p>	